

県立高等学校の中期再編整備計画（第1期）

平成17年2月
埼玉県教育委員会

目 次

1	統合を伴う再編整備	
(1)	不動岡誠和高校と騎西高校の統合	・・・ 1
(2)	狭山高校（全日制・定時制）、川越高校（定時制） 及び豊岡高校（定時制）の統合 並びに川越工業高校（定時制）の学科再編	・・・ 1
(3)	鶴ヶ島高校と毛呂山高校の統合	・・・ 2
(4)	新座北高校と所沢東高校の統合	・・・ 2
(5)	上尾沼南高校と上尾東高校の統合 （大宮中央高校の協力）	・・・ 3
(6)	寄居高校と川本高校の統合	・・・ 3
2	単独校で行う再編整備	
	朝霞高校	・・・ 4
(参考資料 1)		
	県内中学校卒業生数の動向と適正な学校規模	・・・ 5
(参考資料 2)		
	昭和 4 0 年度以降の県内中学校卒業生数等	・・・ 6

1 統合を伴う再編整備

□の中の高校に新校を設置

(1) 不動岡誠和高校と騎西高校の統合

対象校	再編整備の方針等
<p>□不動岡誠和高校</p> <p>騎西高校</p> <p>(仮称：不動岡新校)</p>	<p>(方針) 不動岡誠和高校と騎西高校を統合し、新たな福祉系専門高校を現在の不動岡誠和高校に設置する。</p> <p>(時期) 開校時期は、平成20年度とする。</p> <p>(生徒募集) 新たな高校は、平成20年度の入学者から生徒募集を行う。 不動岡誠和高校は、平成19年度の入学者まで生徒募集を行う。 騎西高校は、平成17年度の入学者まで生徒募集を行う。</p> <p>(課程・学科) 全日制課程(福祉に関する学科・総合学科)とする。</p> <p>(教育内容等) 福祉に関する学科では、福祉業務に関する専門的知識及び基本的技能を身に付けさせる。 総合学科では、福祉に関連する教養を身に付けさせるとともに、普通教育にも対応できる教育課程を導入し、生徒の幅広い進路希望に対応する。 (例) 福祉系列、教養系列など</p>

(2) 狭山高校(全日制・定時制)、川越高校(定時制)及び豊岡高校(定時制)の統合並びに川越工業高校(定時制)の学科再編

対象校	再編整備の方針等
<p>□狭山高校(全・定)</p> <p>川越高校(定)</p> <p>豊岡高校(定)</p> <p>(仮称：狭山新校)</p>	<p>(方針) 狭山高校の全日制課程及び定時制課程、川越高校の定時制課程並びに豊岡高校の定時制課程を統合し、新たな昼夜開講の定時制高校(パレットスクール)を現在の狭山高校に設置する。</p> <p>(時期) 開校時期は、平成20年度とする。</p> <p>(生徒募集) 新たな高校は、平成20年度の入学者から生徒募集を行う。 狭山高校の全日制課程は、平成17年度の入学者まで生徒募集を行う。 3校の定時制課程は、平成19年度の入学者まで生徒募集を行う。</p> <p>(課程・学科) 昼夜2部制の定時制課程(総合学科)とする。</p> <p>(教育内容等) 勤労青少年や中途退学者などの学習環境に配慮する。 3年間での卒業を可能とする柔軟な学習システムを導入する。 (例) 他部履修の実施、通信制課程との併修 教育相談体制を充実する。 大宮中央高校通信制課程との連携を図る。 (例) 併修の実施、スクーリングへの協力</p>
<p>川越工業高校(定)</p>	<p>(方針) 川越高校の定時制課程の統合に伴い、工業教育に加えて、普通教育への対応も可能な学科再編を行う。</p> <p>(時期) ○ 学科再編は、平成20年度に行う。</p> <p>(生徒募集) 平成20年度の入学者から、再編後の学科による生徒募集を行う。</p>

(3) 鶴ヶ島高校と毛呂山高校の統合

対象校	再編整備の方針等
<p>鶴ヶ島高校 毛呂山高校</p> <p>(仮称 : 鶴ヶ島新校)</p>	<p>(方針) 鶴ヶ島高校と毛呂山高校を統合し、新たな全日制単位制高校を現在の鶴ヶ島高校に設置する。</p> <p>(時期) 開校時期は、平成 2 0 年度とする。</p> <p>(生徒募集) 新たな高校は、平成 2 0 年度の入学者から生徒募集を行う。 鶴ヶ島高校は、平成 1 8 年度の入学者まで生徒募集を行う。 毛呂山高校は、平成 1 7 年度の入学者まで生徒募集を行う。</p> <p>(課程・学科) 全日制課程 (普通科) とする。</p> <p>(教育内容等) 生徒の習熟度に応じた基礎的学力の育成を図る。 (例) 少人数級展開、習熟度別授業など</p> <p>○ 生徒の達成感、成就感を重視し、地域と連携した教育活動を展開する。 (例) 体験的学習、各種実習など</p>

(4) 新座北高校と所沢東高校の統合

対象校	再編整備の方針等
<p>新座北高校 所沢東高校</p> <p>(仮称 : 新座新校)</p>	<p>(方針) 新座北高校と所沢東高校を統合し、新たな全日制単位制高校を現在の新座北高校に設置する。</p> <p>(時期) 開校時期は、平成 2 0 年度とする。</p> <p>(生徒募集) 新たな高校は、平成 2 0 年度の入学者から生徒募集を行う。 新座北高校は、平成 1 9 年度の入学者まで生徒募集を行う。 所沢東高校は、平成 1 7 年度の入学者まで生徒募集を行う。</p> <p>(課程・学科) 全日制課程 (普通科) とする。</p> <p>(教育内容等) 生徒一人一人の進路実現に向け、基礎的学力の向上を図る。 (例) 少人数級展開、習熟度別授業など 部活動等を活性化する。 生徒指導、進路指導を充実する。</p>

(5) 上尾沼南高校と上尾東高校の統合（大宮中央高校の協力）

対象校	再編整備の方針等
<p>上尾沼南高校 上尾東高校</p> <p>（仮称：上尾新校）</p>	<p>（方針） 上尾沼南高校と上尾東高校を統合し、新たな全日制単位制高校を現在の 上尾沼南高校に設置する。</p> <p>（時期） 開校時期は、平成20年度とする。</p> <p>（生徒募集） 新たな高校は、平成20年度の入学者から生徒募集を行う。 上尾沼南高校は、平成18年度の入学者まで生徒募集を行う。 上尾東高校は、平成17年度の入学者まで生徒募集を行う。</p> <p>（課程・学科） 全日制課程（普通科）とする。</p> <p>（教育内容等） 生徒の習熟度に応じた基礎的学力の育成を図る。 （例）少人数級展開、習熟度別授業など 不登校経験者支援モデル校として、不登校経験者などの就学等に配慮する。 （例）「不登校対応担当」教員の配置、不登校生徒に対応する特別指導の導入、特別選抜枠の拡大など 教育相談体制を充実する。</p>
<p>（協力校） 大宮中央高校 （定時制・通信制課程）</p>	<p>（協力内容） 上尾新校の不登校経験者に対応する特別指導に使用する教材開発などについて協力する。</p>

(6) 寄居高校と川本高校の統合

対象校	再編整備の方針等
<p>寄居高校 川本高校</p> <p>（仮称：寄居新校）</p>	<p>（方針） 寄居高校と川本高校を統合し、新たな地域連携型の総合学科高校を現在の寄居高校に設置する。</p> <p>（時期） 開校時期は、平成20年度とする。</p> <p>（生徒募集） 新たな高校は、平成20年度の入学者から生徒募集を行う。 寄居高校は、平成18年度の入学者まで生徒募集を行う。 川本高校は、平成19年度の入学者まで生徒募集を行う。</p> <p>（課程・学科） 全日制課程（総合学科）とする。</p> <p>（教育内容等） 生徒の習熟度に応じた基礎的学力の育成と実務能力の向上を図る。 （例）少人数級展開、習熟度別授業、資格取得など 地域との連携を密にし、地域の資源を活用した教育活動を展開する。 生徒の能力・適性、興味・関心、進路希望に応じた適切な科目の履修ができるよう、ガイダンス機能の充実を図る。</p>

2 単独校で行う再編整備

朝霞高校

対象校	再編整備の方針等
朝霞高校	<p>(方針) 現在の朝霞高校を改編し、全日制単位制高校とする。</p> <p>(時期) 改編は、平成17年度に行う。</p> <p>(生徒募集) 平成17年度入学者から、単位制高校として生徒募集を行う。</p> <p>(課程・学科) 全日制課程(普通科)とする。</p> <p>(教育内容等) 生徒の多様な学習ニーズに応じた教育課程を編成する。 多様な教科・科目を設定する。 生徒の科目選択に合わせた少人数授業を実施する。 生徒一人一人の進路希望を実現する。</p>

(参考資料1)

「21世紀いきいきハイスクール推進計画」から抜粋

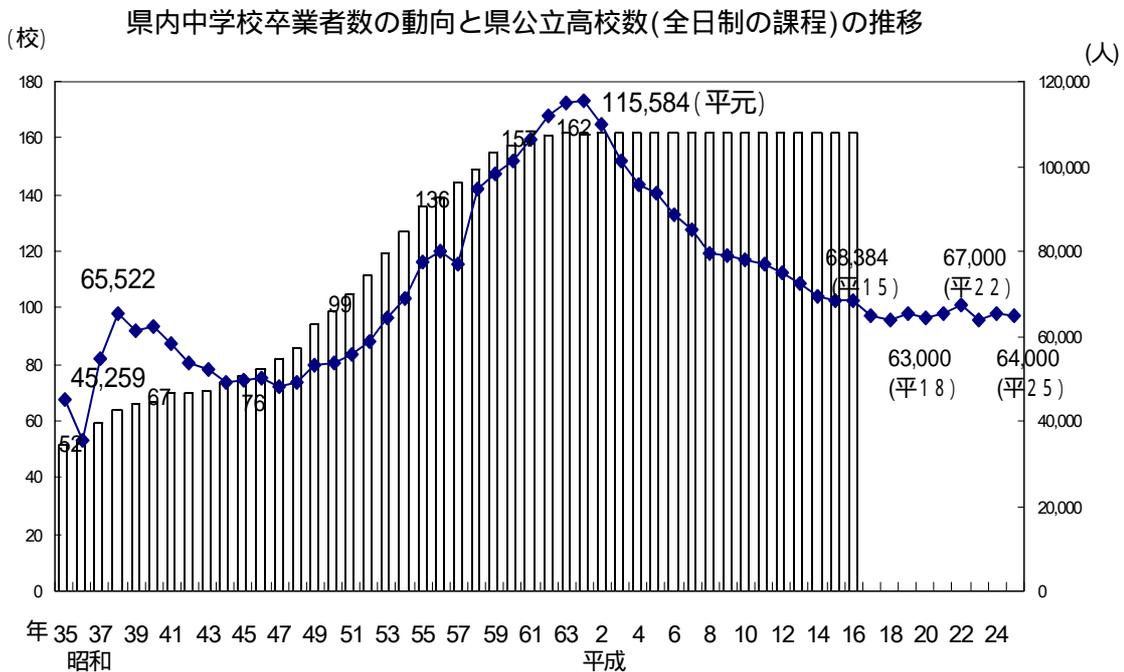
県内中学校卒業生数の動向と適正な学校規模

1 県内中学校卒業生数の動向

県内中学校卒業生数は、平成元年にピークを迎え115,584人であったが、その後、生徒数は急減し、平成15年3月には68,384人となった。

平成14年12月の「義務教育人口推計結果報告書(平成15~20年度)」などに基づくと、さらに減少して、ボトム期(平成18年3月)には、約63,000人になると推計され、平成元年3月と比べ、約55%の卒業生数となることが見込まれている。さらにこの結果報告書などに基づき、平成21年度以降の中学校卒業生数についても予測をすると、小さな幅での増加・減少を繰り返しながら推移し、平成25年3月には、約64,000人になると推計される。

首都圏に位置する本県の地理的条件などを考慮し、今後の生徒数の動向については慎重に見守る必要がある。



平成15年3月卒業生までは実績値、それ以降は「義務教育人口推計結果報告書(平成15年~20年度)」等に基づく予測。
学校数は、県立と市立を併せたもの(例)平成15年度(全日制) 県立153校+市立9校 162校)

2 適正な学校規模

生徒数の減少に伴い、学校の小規模化が進むと、多様な教育課程の編成が困難になったり、学校行事などの特別活動や部活動の活力が低下するなど、学校運営上の課題が生ずることから、各学校が一層活力ある教育活動を進めるために、一定の生徒数を確保する必要がある。

適正な学校規模については、各学校が新しい学習指導要領に基づく教育課程の編成・実施や施設状況に応じた、適切な教室数の確保ができるよう、また、各学校が活力ある教育活動を進めることができるよう、配慮する。

学年当たりの適正な規模については、

・ 普通科(専門学科併置校を含む)	320人~240人(8学級~6学級)
・ 専門学科	240人(6学級)
・ 総合学科	320人~240人(8学級~6学級)

を標準とする。

(参考資料2)

昭和40年度以降の県内中学校卒業生数等

	県人口 (国勢調査)	中学校卒業生			生徒募集				学級編制(定員)		
		卒業生数	進学者数	進学率	課程	募集実施 学校数	人員	学級数	普通科	専門学科	総合学科
昭和40年度	3,014,983	62,238	43,489	69.9	全日	66	28,260	580	50	40~50	
					定時	32	3,725	77	20~50	40~50	
昭和45年度	3,866,472	49,575	41,763	84.2	全日	75	26,363	577	47	40~47	
					定時	36	3,408	79	20~44	40~44	
昭和50年度	4,821,340	53,613	50,260	93.7	全日	99	31,560	714	45	40~45	
					定時	36	2,940	74	20~40	40	
昭和55年度	5,420,480	77,654	73,865	95.1	全日	136	47,705	1,073	45	40~45	
					定時	37	2,280	57	40	40	
昭和60年度	5,863,678	101,180	95,435	94.3	全日	157	59,415	1,335	45	40~45	
					定時	35	2,120	53	40	40	
平成元年度		115,584	107,039	92.6	全日	162	68,219	1,449	45~48	41~47	
					定時	36	2,160	54	40	40	
平成2年度	6,405,319	110,104	102,711	93.3	全日	162	63,484	1,421	45	41~42	
					定時	36	2,160	54	40	40	
平成3年度		101,473	95,093	93.7	全日	162	60,735	1,366	40~45	40~45	
					定時	36	2,200	55	40	40	
平成4年度		95,655	89,866	93.9	全日	162	57,400	1,320	40~45	40~45	
					定時	36	2,200	55	40	40	
平成5年度		93,444	88,912	95.2	全日	162	56,015	1,318	40~45	40~45	
					定時	36	2,240	56	40	40	
平成6年度		88,835	85,797	96.6	全日	162	53,635	1,307	40~45	40~45	
					定時	36	2,160	54	40	40	
平成7年度	6,759,311	85,131	82,380	96.8	全日	162	52,160	1,304	40	40	40
					定時	36	2,120	53	40	40	
平成8年度		79,328	76,939	97.0	全日	162	50,120	1,253	40	40	40
					定時	36	2,120	53	40	40	
平成9年度		79,059	76,471	96.7	全日	162	49,840	1,246	40	40	40
					定時	36	2,120	53	40	40	
平成10年度		78,215	75,987	97.2	全日	162	49,360	1,234	40	40	40
					定時	36	2,080	52	40	40	
平成11年度		76,982	74,712	97.1	全日	161	48,480	1,212	40	40	40
					定時	34	1,960	49	40	40	
平成12年度	6,938,006	74,780	72,952	97.6	全日	162	47,080	1,177	40	40	40
					定時	34	1,920	48	40	40	
平成13年度		72,521	70,515	97.2	全日	162	45,880	1,147	40	40	40
					定時	34	1,920	48	40	40	
平成14年度		69,470	67,675	97.4	全日	162	44,120	1,103	40	40	40
					定時	34	1,920	48	40	40	
平成15年度		68,384	66,822	97.7	全日	159	43,280	1,082	40	40	40
					定時	34	1,920	48	40	40	
平成16年度		68,227	66,850	98.0	全日	158	42,920	1,073	40	40	40
					定時	34	1,920	48	40	40	